

## 令和5年度「IRビジネスセミナー」質疑応答要旨

(質問者1)

今日はありがとうございました。経済界での新年互礼会で挨拶に立たれた方が、万博ができ、これからはIRができるというふうに言っていたんですけども、大阪ではカジノに対する拒否感みたいなものはだいぶ減ってきたんでしょうか。僕から見たら減ってきたような気がするんですけど。

(回答：職員)

カジノに対する拒否感についてのご質問だったと思うんですけども、カジノに対する拒否感といった統計を現在、大阪府市として持ち合わせておりませんので、はっきりお答えすることはできません。ただ、府民・市民の方はいろいろカジノに対する考え方があると思いますので、先ほど高橋先生がおっしゃったように、カジノだけではなくIRが持っている効果や意義を、我々としては一生懸命発信していつて、府民・市民の方の理解を深めていきたいというふうに考えております。

(質問者2)

資料1-13 ページのところのいわゆる危機管理・防災対策のところ、先だっても能登で災害がありました。やはり安心してということ言えば、津波とか高潮とかあるいは地震に対する避難計画とか、そういう安全対策っていうのは、何かもうちょっと具体的なものはあるのでしょうか。

(回答：職員)

IRにおきましては、夢洲へのアクセスとしては、咲洲トンネル、夢舞大橋の二つのルートがありまして、それらは南海トラフ巨大地震に対する耐震を確保しております。あと、IR事業者においては、区域整備計画の方に書かれておりますが、重要施設の高い耐震性の確保、例えばエネルギーについては、エネルギーセンターを設ける予定にしており、災害対策に取り組んでいきます。具体的にどんなことに取り組むのかというと、当然BCP事業継続計画を策定し、先ほども説明させてもらったエネルギー施設に関しましては高い耐震性を確保すると、想定外の津波・高潮に備えた建築設計も今のところ詳細設計として進めており、主要施設の床レベルに関しては、想定される津波を上回る高さで設定するという計画になっております。

当然そういう万が一の浸水リスクというのも検討しておりまして、IR区域南側にそのような重要施設、電気施設等の配置と、また浸水等のリスクもゼロではありませんので地上階に設置するなど、十分な浸水対策等も検討しております。あと3日間滞在できるように、非常用電源等の自立的なユーティリティを確保して、災害時においては、IR区域内でも3日間機能するようにエネルギー供給施設やインフラ施設の整備をして対策するというのを優先的に行うということを計画しております。災害時のソフト対策としては、大阪府市とIR事業者が連携し、積極的にSNSや防災無線等を活用して、その区域の中におられる方にも情報等発信を行っていき、IR事業者においても、当然夢洲は島であるため、帰宅困難者というのも想定されますので、災害発生から3日間以上、安全に過ごすための備蓄品を保管するというような計画を立てております。

(質問者3)

貴重な情報をいただきましてありがとうございました。2030年ということですね、これからずいぶん先で、この資料1-10ページにあるカジノ施設の中にもね、当然顧客価値の提供という、こういった文言が出てきてます。高橋先生からも例えば、ビジネストラベルのマーケットですら、従来のMICEからインターネットでの参加っていうものが確実に増えてきて、おそらくコロナ以降この辺の体験価値を大きく変わってきたというふうに思うんですね。

その中で、カジノの中で各顧客誘導層っていうのは、ここに出ますように、まずプレミアム・VIPと、こういう形で書いていただいでですね、10ページですね。多分この人たちの収益っていうのは莫大な影響を多分与えていく、この1000億の中の大きなものになっていく。これをベースに、いろんな施設をリニューアルしたりしていくことになるんだろうと。その中にこのオンラインカジノを含めたオンラインのマーケット、これから2030年に向かってのMICEもそうですけど、このオンラインマーケットとのシナジーみたいなもの、果たしてこれどうなっていくのかな。逆にMICEに参加する人は減っていくのかな。カジノに有料で参加するVIPは減っていくのかなとか、このあたりのお考えなんかをもし今のわかる段階で結構ですので、教えていただければありがたいです。

(回答：講師)

先ほどマッキンゼーのですね4分類で見ていただいたところの一番下のところにあった、様子見をしているっていう層がこのMICEの中に当てはまっていくわけですが、当初危機感を持っていた神戸観光局の方が後半に入ってにこやかな顔が変わってきてる。これはですね、やはりリアル参加が増えてきたことによって、ホテルの稼働率が違ってきたというようなことなんだろうと思います。

じゃあそうではなくて、オンライン参加の方に戻りはしないのかというようなことになったら、これは何とも言えません、わかりません。わからないんですが、ただ、医学部の先生方の話を聞いてると、なるほどそういうことかと思って思ったのは、オンラインで国際学会に参加すると、時差がある関係で夜中に話を聞かなきゃいけないのだと。昼日中起きて患者さんを診ていて、夜参加する、これはもうつらくてかなわないというわけですね。ただ実際にリアルで参加するっていうことになると、今回のこの期間はあけますよということで、代わりの先生に入ってもらってやっていくっていうことなので、そうにはならない。

また、共同研究やろうっていうときは、論文で同じ研究をやってるっていう方を探しながらコンタクトをとるけども、やっぱり本当に一緒にできるかどうかっていうのは、学会が終わった後のホワイエでのコーヒータイトムとか、あるいは懇親会のときに話をして、この人とだったら一緒にやっつけられるなというような確信があつてこそ次に進んでいくと、だからリアルで参加しなきゃいけないんだということです。私は多分こういう流れが元に戻ってくるきっかけになってくるのではないかなというようには思っています。

(回答：職員)

一点付け加えさせていただきますと、オンラインでカジノというご発言があつたと認識しているんですけども、IR整備法におきまして、2条、39条、73条をあわせて解釈しますと、カジノ行為ができるエリアというのが限定されておりまして、大阪IRにつきましても、オンラインによるカジノ参加ですとか、カジノ施設以外の部分でのカジノができないということになっております。

もう一点追加いたします。オンラインカジノは当然我々としても既に海外で一定普及していることは

認識しておりますが、ラスベガスなど海外のいわゆるランドカジノの需要はこれまでも伸びてきているところであります。当然、ラスベガスも、マカオも新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、ランドカジノ、一般的なカジノに関しましては収益は一時的に減少しておりますが、感染症が一定終息して以降、今、ラスベガスに関しては以前を上回る回復をしている状況ということ、我々としては掴んでおまして、2030年まで、もう少し時間ありますので、ある程度需要等も回復するものと思っております。

(質問者4)

勉強不足なので教えていただきたいなと思って質問させていただきます。この大阪・夢洲のIRというのは2030年、今からもう5年、6年後に出来上がるものということなんですが、既に世界中グローバルには著名なIRもたくさんあって、ひょっとしたら30年までに他にもできてくるようなところもあったりもするかもしれません。そういう中で30年に開業されるのをめざしておられると思うんですが、例えば、現存するIR、あるいはこれからまた出来上がってくるIRの中で、こういうところをロールモデルといいますかめざすところで、イメージとしてはこんなIRに大阪のIRもしたいなっていうところがあれば、そういうところが現存であるので、こういうイメージになるんだっていうのが理解できるかなと思いました。

もちろん、そういったところにはない新しいものをめざしておられるんだと思いますけれども、より近いといったところがあれば、そういうところどこかなというふうに思いました。それから送客っていうことをめざしておられるんですけども、今の世界中にあるIRって滞在型で、そこで全部お金がっぽりみたいなイメージをもってるので、そういうところと違うっていうところが、もし実はこういう国のIRはそういうふうやってるんですよ、というのがあればそれが勉強になるので、教えていただければと思います。

(回答：職員)

まず一点、ロールモデルがあればということなんですが、シンガポールのIRを参考に、事業の方進めてまいっております。

もう一つの送客施設ですが、今日お渡しさせていただきました説明会資料にも書かせていただいているとおり、例えば、このIRのコンセプトという形になっておまして、3ページでしたら我々がめざしてるのは、関西のゲートウェイという形で、そこに関西ツーリズムセンターというのを設けまして、当然、関西、京都など、そういう観光地等へ送客するという、拠点という形で関西ツーリズムセンターというものを設ける計画になっております。あと、ウォーターフロントゾーンの北側にフェリーターミナルを設置する計画もあります。そこから西日本などを中心に、主要な観光地等に、IR施設に来られた方々を送客するという計画を考えております。

(回答：講師)

カジノというかIRにどんな人が来るのかっていうようなことを、ラスベガスの訪問目的としてまとめ、Las Vegas CONVENTION AND VISITORS AUTHORITY というところが出しているんですけども、いわゆるレジャー目的で来る人たちが約5割なんですね。ギャンブルを目的に来る人たちっていうのは、毎年違いますけど平均で7、8%、これはマカオでも同じような数字なんです。ですから、カジノをすることのみを目的に滞在する人たちというのは、非常に少ないだろうと思います。

このレジャーの目的で来る方、それはエンターテイメントもあれば、ホテルなどで滞在を楽しむということもあるんでしょうが、しかし、当然のことながらその周辺の観光ということも含めて、レジャーに来るといように考えた方がいいのではと思います。

例えばラスベガスであればグランドキャニオンとかですね、そういった周辺観光なども楽しみながら、夜はエンターテイメントを楽しみ、ちょっと時間が空いたからカジノもやってみようかなというような流れですので、滞在をするというような趣旨というのは、必ずしも I R だけではなくその周辺も含めた滞在というように私は考えた方がいいのではと思います。

#### (質問者 5)

まず、資料 16 ページに、公聴会あるいはいろいろな住民意見等の募集をやったということで、私も公聴会で発言もしてまして、意見も書いたことあるんですが、意見を書いた 2 年ほど前には、2 ページ目のですね、海外からのアクセスのところに、天保山旅客ターミナルが抜けてるのはおかしいと言ったのが、その直後では訂正が書かれてたんですが、また本日このような上海から大阪国際フェリーターミナル、これは貨客船ターミナルですね、コンテナをメインに扱ってその中で人を乗せてるというようなターミナルを書いて、天保山旅客ターミナルを書いてないのはなぜかということと、この今のページとあわせて、カジノの本方針等でも書かれてましたし、今少し説明がありましたけども、いわゆる大阪は、長崎がなくなったわけですから日本唯一のカジノになるわけです。そうすると、ここに来る客の全国への集参機能っていうのは非常に大きなウエイトを持つと思うんです。そういう立場でこの 16 ページにも世界各地の周遊と書いてあるにもかかわらず、今のページの関西ツーリズムセンター、関西になってるのは私は非常にミスリードではないかと思う。少なくとも日本で書くのが嫌であればですね、I R ツーリズムセンターと、事業内容としては 10 日間の日本・韓国を回る周遊ツアーとか、今高橋先生もおっしゃったけど、瀬戸内を廻る 2 日間ツアーってのが天保山からありますよと、書くべきではないかと思うんですが教えてください。

#### (回答：職員)

ご質問の天保山旅客ターミナルについてですが、今回配布した資料というのは概要になっておりまして、実際区域整備計画というホームページで公表されている 100 ページ以上ある元となる計画から作成されたのが、今回の資料です。その区域整備計画にはきっちり船舶ネットワークという形で、大阪港の定期航路以外にも国内外のクルーズ船が天保山等に発着寄港しているってことも記載させていただいておりますし、そこには、天保山に着眼してることも区域整備計画には記載させていただいております。現在のそういう例っていうのを書かせていただいて、今後、ターミナルに関しましては、まだ 2030 年ということもありますので、今後どのように計画していくのかはこれからのことになります。具体的な運用などが変更されていく中で、必要に応じて天保山旅客ターミナルの活用等っていうのも、所管は大阪港湾局になりますが、そういうところと協議、検討しながら進めていくものと今の段階では認識しております。

もう一つの関西ツーリズムセンターは名称でもありますので、その点についてはご意見として承ります。